酒々井町郷土史年表

酒々井の文化

酒の井の碑（ひ）

酒々井の地名の起源となった、親に飲ませた井戸の水が酒に変わったという酒の井伝説を伝える石碑として今に伝わっています。

墨の獅子舞（県の指定文化財）

六所神社が建てかえられた1734年から始まり、毎年７月の第３日曜日に六所神社で行われます。

上岩橋の獅子舞（町の指定文化財）

毎年４月の第１日曜日に駒形神社、菊質神社、大鷲神社で行われます。

馬橋の獅子舞（町の指定文化財）

毎年７月の第３土曜日に香取神社で行われます。

双体道祖神（そうたいどうそじん）

男像の右手が女像の肩にかけられ、その手を女像の右手が握り、双方の左手は１本の杖を握っている道祖神で、町では９組見られます。

道標（みちしるべ）追分不動道標

道標は現代の道路標識と同じで、分かれ道などで通行人が道に迷わないように、目的までの距離や方向を示すためにつくられました。旅人がふえた江戸時代から多く置かれるようになりました。

不動明王坐像の彫刻がある珍しい道標です。昔の成田街道は、成田山新勝寺等にお参りする旅人のために多くの道標が造られました。

酒々井の歴史

墨古沢遺跡（旧石器時代）

約３万４千年前の大昔の人が、ナウマンゾウなどの大型動物を求めて移動生活を行い、この地で石器を作る作業などを行っていました。

墨木戸遺跡　（縄文時代）

縄文時代には印旛沼（香取の海）での漁労と台地での採取・狩猟によって食料を手に入れて、定住生活を行っていました。

墨小盛田古墳（古墳時代）

古墳は権力者が力を示すために、多くの労働力を集めて造りました。この古墳は長軸30m、短軸23m、高さ３mの長方墳です。

本佐倉城跡（戦国時代）

15世紀末に千葉氏の城として千葉輔胤によって築かれました。約35haの広大な城跡には空堀や土るいなどが残っています。

野馬会所跡（江戸時代）

江戸幕府の牧場である佐倉七牧を管理していた野馬会所の跡です。放牧した馬をつかまえて、軍事、運搬、農耕用として取引しました。

酒々井駅の図（江戸時代）

江戸時代の酒々井宿には10軒の宿屋があり、成田不動や芝山観音へのお参りが盛んになると大勢の旅人が通って行きました。

中川の景

酒々井町の歴史について

酒々井町では旧石器時代の墨古沢遺跡から石器が発見されていて、少なくとも今から約３万４千年以上前の昔から人が住んでいたことがわかります。その後の縄文時代の生活で使っていた土器のかけらが、町の台地で多く見られ、弥生時代の遺跡や古墳時代の古墳も発見されています。

その後の奈良時代から江戸時代まで、この町は古くから人がくらす住みやすい場所でした。古代には、古東海道がつくられ、中・近世には，成田道(佐倉道)、小見川道、香取道、銚子道などの交通の要しょうの地として、人々の往来の盛んな地域でした。

この長い歴史のなかで、戦国時代には下総の国を治めた千葉氏が本佐倉城をつくり、約100年にわたり、政治・経済の中心地として栄えました。

江戸時代には幕府が直接、牧場（まきば）を管理する役所のある町、成田道の宿場町としてにぎわい、明治22年の町村制施行の際に、近くの16町村が合併し、酒々井町が誕生しました。

昭和50年代には、大規模な住宅開発に伴う急激な人口増加により、それまでの農業中心の町から、都市機能を備えた住宅都市に変わり、人口２万人を超える町へと発展しました。

酒々井の自然

【地層】上岩橋貝層(かみいわはしかいそう)

約20万年前にこの辺りが古東京湾であったころに堆積した貝層です。120種類以上の貝化石が含まれています。

【谷津】西井戸の里

野鳥や昆虫などの生き物がたくさんすんでいるところで、「里山フォーラム」の方が中心になって整備している土地です。

【水辺】印旛沼（中央排水路）

むかしは、「香取の海」と呼ばれていた沼で、今では北印旛沼と西印旛沼を水路で結ばれ、ヘラ鮒などの魚を釣る人が訪れています。

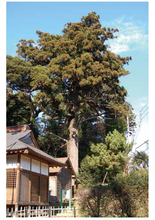
【わき水】泉の里（飯積）

飯積の大杉のそばにある泉で、今でもわき水が出ています。近くには、泉福院という名の寺院もあるなど泉に関わりの深いところです。

【生物】蛍（ホタル）の里

「蛍の里を守ろう会」と地元により保護されている池で、６月上旬ごろからホタルが見られます。

【樹木】飯積（いいづみ）の大杉



伊豆神社の境内にある大杉です。

推定の樹れいは、700年の大きな木です。町では一番大きな杉として、町の指定文化財となっています。

氏名

■画像提供／八街市郷土資料館、大本山成田山新勝寺、成田山霊光館
■発行日　2019年４月１日
■編集・発行／酒々井町教育委員会
※本資料掲載の画像等を複写・転載することを禁じます。